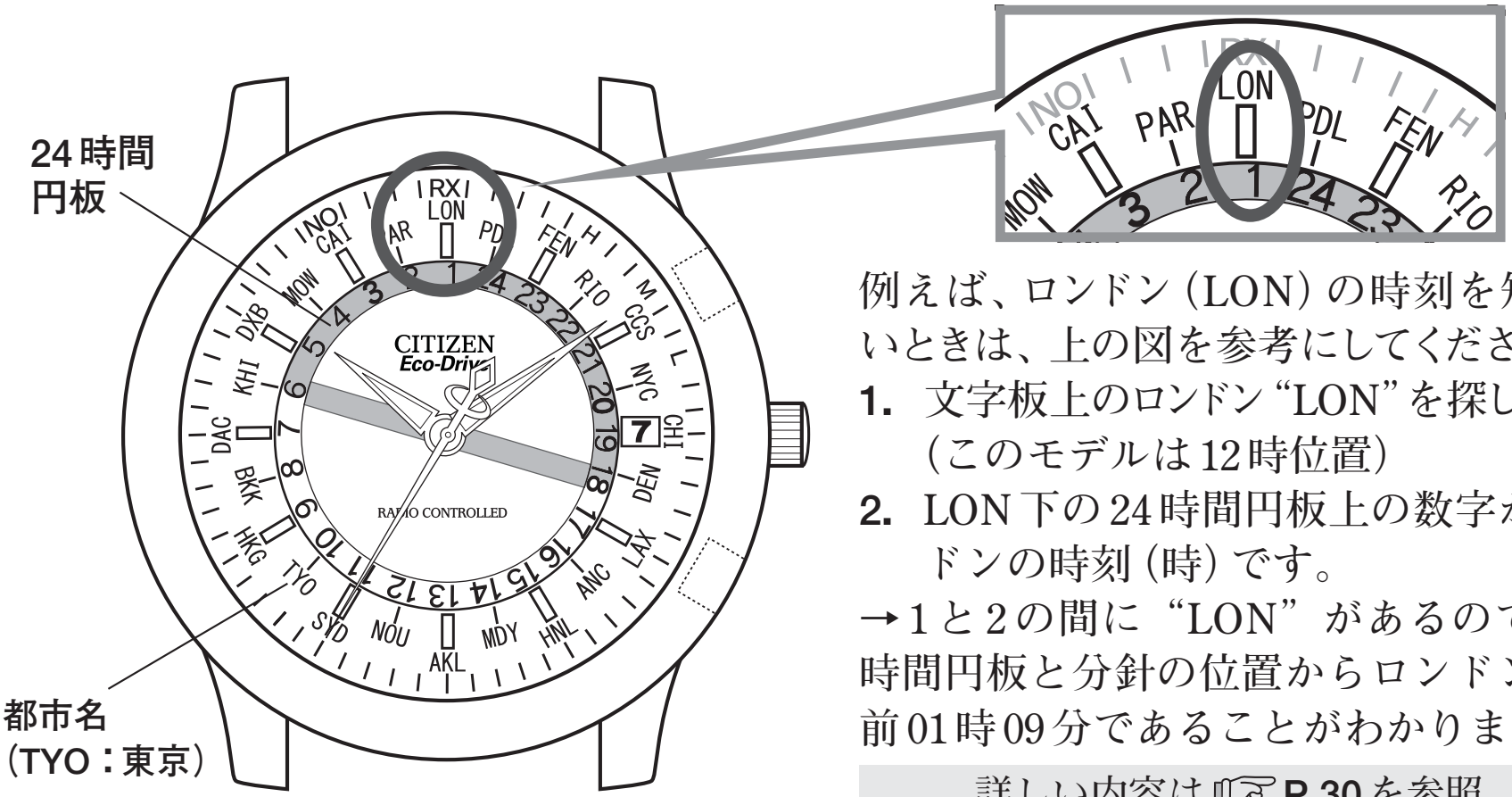
■ワールドタイムの見方■

この時計では、3針による日本時間と同時に、文字板上の都市名と24時間円板上の数字を読むことで、世界各都市の時刻を知ることができます。



例えば、ロンドン（LON）の時刻を知りたいときは、上の図を参考にしてください。

1. 文字板上のロンドン“LON”を探します。（このモデルは12時位置）
2. LON下の24時間円板上の数字がロンドンの時刻（時）です。

→1と2の間に“LON”があるので、24時間円板と分針の位置からロンドンは午前01時09分であることがわかります。

詳しい内容は☞ P.30 を参照

この取扱説明書をお読みいただく際は、左ページの時計図を開いた状態でお読みください。

When reading this instruction manual please keep the watch diagram at left folded out and in view.

この時計の修理について

この時計は、バンドを除くすべての修理は「メーカー修理」となります。
これは、修理、点検、整備等に特殊技術、設備を必要とするためです。修理等の際は最寄りの弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

Notice

All parts of this watch, except for the band, are to be repaired only at CITIZEN.
This is because special technologies and equipment are required to perform repairs, inspections and adjustments. Please make requests for repairs to Citizen Consumer Help Desk or your nearest Customer Support Center when having your watch repaired.

このたびは、シチズンウオッチをお買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申しあげます。なお、この取扱説明書は大切に保管し必要に応じてご覧ください。

また、シチズンホームページの『時計の操作ガイド』で操作説明がご覧いただけます。
URL：http://citizen.jp/support.html

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

⚠	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

目次

○ 各部の名称 …… i
○ ワールドタイムの見方 …… 1
1. 商品の特徴 …… 6
2. りゅうずの操作方法 …… 8
3. ご使用になる前にお確かめください …… 10
基準位置の確認方法 …… 12
4. 機能一覧表 …… 14

電波受信
5. 受信可能地域の目安 …… 16
6. 上手に受信するために …… 18
7. 受信が困難な場所について …… 19
8. 受信の方法 …… 20
A. 受信中の秒針の位置 …… 22
B. 受信結果の確認方法 …… 23

手動による時刻、カレンダーの合わせ方
9. 時刻の合わせ方 …… 24
10. カレンダーの合わせ方 …… 26
11. ワールドタイムについて …… 30
12. 時差修正の方法 …… 32
13. 基準位置の修正方法 …… 34

光発電
14. 光発電機能について …… 36
15. ソーラーパワーウオッチ特有の機能について …… 38
A. パワーセーブ機能 …… 40
B. 充電警告機能 …… 42
C. 過充電防止機能 …… 43
D. 充電時間の目安 …… 44
E. 取り扱い上の注意 …… 46

こんなときには
電波受信機能について …… 48
エコドライブについて …… 50

お取り扱いに当たって …… 52
16. 製品仕様 …… 60

保証とアフターサービスについて …… 62

受信困難なお客様へ …… 64

お問い合わせ窓口 …… 65

1．商品の特徴

◎**受信機能**：福島と九州の2局から送信される標準電波（時刻情報）を受信環境の良い局を選んで受信し、時刻や日付を自動修正する電波時計です。

◎**エコドライブ機能**：光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を動かす光発電機能を持ったエコドライブ電波時計です。文字板に光が当たっていないときに時計の消費エネルギーを抑えるパワーセーブ機能を備えています。

◎**ワールドタイム機能**：24時間円板と円板外周に表記された都市との組み合わせで世界各都市の時刻を知ることができます。

◎**時差修正機能**：海外でのご使用に便利な時差修正機能付きです。
時差のある地域へ行ったとき、現地時刻へ簡単に合わせることができます。

Perfex パーフェックス

「JIS 1種耐磁性能」、「衝撃検知機能」、「針補正機能」という3つの機能を一体化させることによって、衝撃や磁気などの外部要因による針ずれを防止しています。

◎**JIS 1種耐磁性能**：日常生活で磁界を発生する機器に5cmまで近づけても時計の機能を維持します。

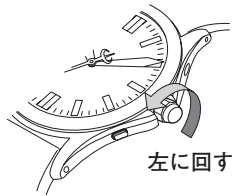
◎**衝撃検知機能**：時計が衝撃を受けたときに秒針、分針、時針のずれを防ぐ機能です。

◎**針補正機能（針の基準位置自動補正機能）**：針の基準位置が適正であるか、一定時間毎に針位置をチェックし、ずれを検出した場合は自動的に、秒針、分針、時針を高速で補正し、正しい時刻を保持する機能です。

2．りゅうずの操作方法

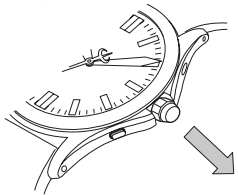
りゅうずには“通常のもの”と“ねじロック”のモデルがあります。
“通常のもの”は、りゅうずをそのまま引きます。

≪ねじロックりゅうずの場合の操作方法≫



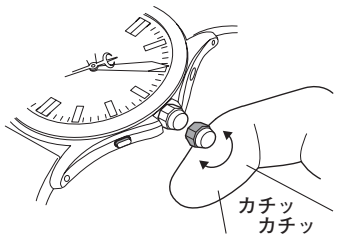
1. りゅうずを左に回します。

2. ねじロックが解除されると、りゅうずが少し飛び出し、りゅうずが通常位置になります。



3. 操作が終わったらりゅうずを軽く押し込みながら右に回してロックしてください。

≪針および日付を連続運針させるには≫

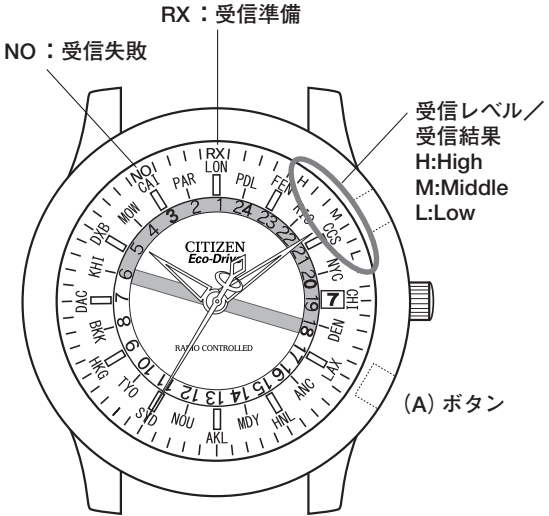


素早く連続回転（2クリック以上）させてください。

1. りゅうずを1段引き、2段引き位置で、右または左に素早く連続回転（2クリック以上）すると、各針および日付が連続で動きます。
1クリックずつ動かすと微調整ができます。

2. 連続運針を止める場合は、りゅうずを右または、左に回転（1クリック）させてください。

3. ご使用になる前にお確かめください



秒針の動きを確認します。

- 秒針が 1 秒毎に動いている
- 秒針が 2 秒毎に動いている、または止まっている場合

→ 直射日光などを当てて、充電してください。

→ 秒針が 1 秒毎に動き出す

→ (A) ボタンを 1 回押して受信結果を確認しましょう。

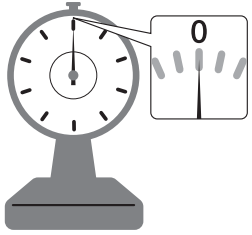
- 秒針が受信結果（H、M、L）を指したとき → 標準電波を正しく受信できています。そのままお使いください。
- 秒針が受信結果（NO）を指したとき → ☞ P.20「強制受信」をご覧いただき、受信を行ってください。

受信ができない場合は
『シチズンお客様時計相談室』に
お問い合わせください。
0120-78-4807

基準位置の確認方法

『ご使用の前に体重計と同じように
針が “0” になっているか確認しましょう』

◎強い磁気や静電気、衝撃を受けたときに基準位置がずれる場合があります。せっかく電波受信をしても正しい基準位置に合わせていなければ正確な時刻を表示することができません。針がきちんと “0” を指しているか確認しましょう。

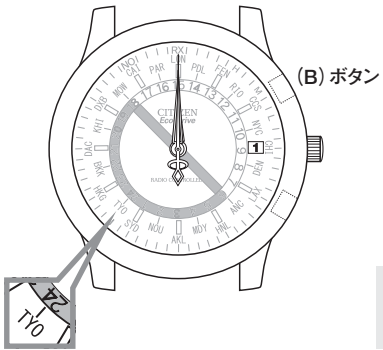


影響のある磁気製品の例

・健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）
・冷蔵庫（ドアのマグネット部）　・電磁調理器
・バッグ（磁石の留め具）　・携帯電話（スピーカー部）
などに近づけないでください。

電波時計は、針の基準位置「0時0分0秒」、24時間円板「東京位置が“24”」、日付「1日」をもとにして、受信した標準時刻や日付を表示します。

正しい基準位置の表示
時刻：0時0分0秒
円板：東京位置に “24”
日付：1日



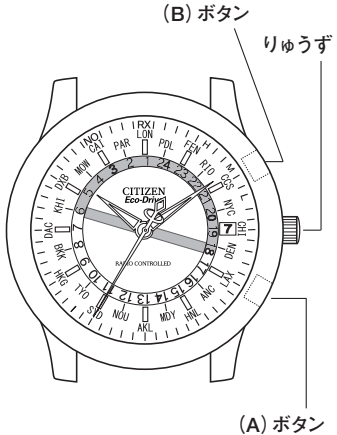
◎基準位置が正しく表示するか確認してください。

りゅうずは通常位置のまま、(B) ボタンを約5秒以上押し続け、秒針が正転または逆転で動き始めたら離します。
すべての針、円板、日付が高速で運針し、時計の記憶している基準位置で止まります。

●最大約7分かかる場合があります。

上記の基準位置表示以外の場合は**P.34「基準位置の修正方法」**をご覧ください。

4. 機能一覧表



機能	各ボタンまたはりゅうずの操作	針の動き
強制受信 ☞ P.20	(A) ボタンを2秒以上押し、秒針がRXに止まったら離します。	秒針がRXに停止し、その後「H、M、L」レベルに移動します。受信レベルを指さない場合は、受信できず通常運針に戻ります。
受信結果確認 ☞ P.23	(A) ボタンを1回押します。	秒針が「H、M、L」または、「NO」に停止します。
時差修正 ☞ P.32	(B) ボタンを1回押し、りゅうずをそのまま回します。	秒針が12時位置に停止します。(時差設定されている場合は、時差分の位置で停止します。) 秒針12時位置が時差±0です。秒針1ステップが1時間分の時差を表示します。
手動による時刻修正 ☞ P.24	りゅうずを2段引きにします。	りゅうず右回転で秒針が時計回りに1回転し、分針が1分進みます。 左回転で秒針が反時計回りに1回転し、分針が1分戻ります。 分針・時針を早送りする場合は、りゅうずを素早く連続回転させてください。 ※日付が切り替わったときが午前0時を指します。
手動によるカレンダー修正 ☞ P.26 (うるう年からの経過年)	りゅうずを1段引きにします。 ＊(A) ボタンを1回押すごとに ⇒うるう年の修正⇒日付の修正に替わります	時計が記憶している「月」と「うるう年からの経過年」の位置に秒針が移動し、停止します。 日　　付：りゅうず右回転で日付が1日進み、左回転で戻ります。 うるう年：(A) ボタンを1回押し、りゅうず右回転で秒針が1ステップ進み、左回転で戻ります。

5．受信可能地域の目安

この時計は標準電波の受信局自動選択機能付きです。受信可能地域の目安は次の通りです。ただし、日の出、日の入りの時間帯や季節の変化、天候（落雷など）により、電波状況は変化します。
受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲でも受信できない場合があります。

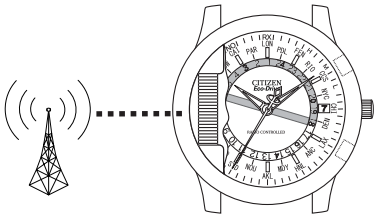
〈電波送信所〉
・おおたかどや山標準電波送信所（福島局）
・はがね山標準電波送信所（九州局）

電波時計が利用している標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守点検等で送信が中断されることがあります。
標準電波が受信できない場合でも、時計は月差±15秒以内の精度で動き続けます。標準電波の送信状態の確認は弊社ホームページ、または「独立行政法人情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。。

日本に2ヵ所ある標準電波送信所から送信される標準電波は、10万年に1秒の誤差といわれるセシウム原子時計をもとに「独立行政法人情報通信研究機構」により管理運営が行われています。

6. 上手に受信するために

この時計は、時計内部に電波を受信するアンテナ（9時位置側）が組み込まれています。上手に受信するためには、時計を腕から外し、時計の9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際などの電波が受信しやすい安定した場所に置き、受信中は時計を動かさないでください。



送信所の方向については ☞ P.16
「受信可能地域の目安」をご覧ください。

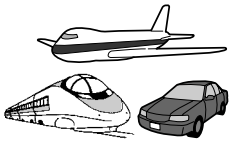
環境によって受信レベルが変わります。時計の受信レベル「H、M、L」を参考に、何度か時計の向きや場所を変えて受信を行い、受信レベルが「H」か「M」を指す受信しやすい場所および、方向を探してください。

7. 受信が困難な場所について

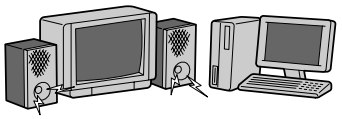
次のような電波ノイズが発生しやすい場所や、電波の届きにくい環境条件下では、電波を受信できないことがあります。

◆極端に高温や低温の場所

◆高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）の近く



◆車、電車、飛行機の中



◆テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の電化製品やOA機器の近く

◆通信中の携帯電話の近く

◆鉄筋コンクリート建物の中
高層ビルや山などの谷間、地下

8．受信の方法

電波の受信方法は定時受信、強制受信、復活自動受信の3つの方法があります。
電波を正しく受信すると自動的に時刻や日付が修正されます。

定時受信（自動受信）

●定時受信はボタン操作の必要はありません。
時計の9時位置（アンテナ位置）を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。毎日自動的に午前2時に受信を行い、受信ができなかった場合は、再度午前4時に受信を行います。

強制受信（手動受信）

●ボタン操作により、いつでも受信ができます。
定時受信ができなかった場合に行ってください。

1．時計を腕から外し、（A）ボタンを約2秒以上押し続け、秒針が高速で「RX」に停止したら離してください。

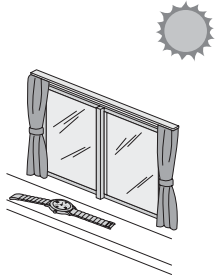
2．時計の9時位置を電波送信所方向に向け、窓際等の電波を受信しやすい安定した場所に置いてください。
●その後、秒針が「RX」から受信中を示す「H、MまたはL」に移動します。
●受信が完了すると、秒針が「H、MまたはL」から1秒運針にもどります。
（約2分～最大13分）

☞ P.23「受信結果の確認方法」にてご覧ください。

復活自動受信

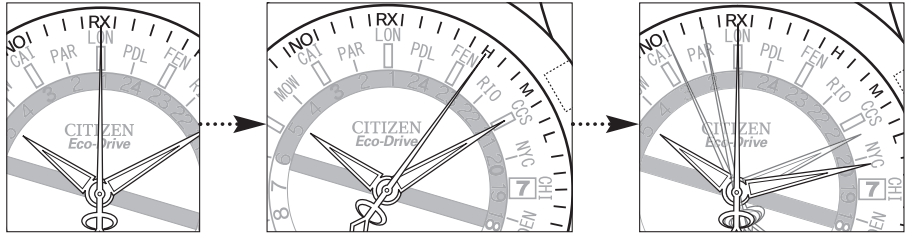
充電不足で時計が止まった後、時計に光を当てて十分に充電すると、一度だけ自動的に受信を行います。充電不足にならないよう、常に充電を心がけてご使用ください。

〈受信の解除〉
受信中に（A）ボタンを約1秒以上押し続けると、受信が強制終了し、現在時刻にもどります。



A．受信中の秒針の位置

［受信準備中］　［受信中］　［受信完了］



◆秒針がRXに移動し、停止します。

◆秒針がRXから受信レベル「H、M、L」に移動

◆正しく受信した場合は、秒針が1秒運針に戻り、各針が自動的に正しい時刻に修正されます。

〈受信に要する時間〉

当日の天候やノイズ状況により、受信にかかる時間が約2分～最大13分かかることがあります。また、秒針が受信準備中（RX）を指し続け「H、M、L」に移動しない場合、約60秒で通常表示にもどる場合があります。

【注意】受信中に受信局が切り替わったり、環境変化等によって途中電波が遮られ、秒針が1回転し再度受信レベルを指すことがあります。1秒運針するまで時計を動かさないでください。

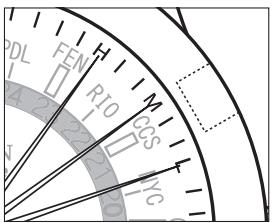
B．受信結果の確認方法

◎受信に成功したか、失敗したかを確認することができます。

1．（A）ボタンを1回押すと、秒針が高速で「H、M、LまたはNO」のいずれかに移動し、受信結果を表します。

2．表示中に（A）ボタンを1回押すと通常運針にもどります。または、受信結果を10秒間表示した後、自動的に通常運針にもどります。

●「NO」を指した場合は、受信しやすい場所および、方向を探して再度「強制受信」を行ってください。



「H、M、L」は、受信レベルを指すものであり、性能には影響はありません。

受信レベル	電波受信後の受信結果
H	受信環境が非常に良い状態で電波を受信
M	受信環境が良い状態で電波を受信
L	受信環境が良くない状態で電波を受信
NO	受信に失敗したとき

《電波を正しく受信しても、受信環境や時計内部処理により、時刻表示にわずかなずれが生じます。》

9．時刻の合わせ方

この時計は電波を受信すると、自動的に時刻、カレンダーが修正されますが、手操作で時刻や日付を合わせることができます。電波が届く地域にもどった場合は、定時受信、または強制受信を行ってください。

◎各状態でりゅうずを回すことによって修正できます。カレンダー修正時は（A）ボタンを1回押すごとに、月修正⇔年修正が切り替わります。

《時刻修正の手順》

1．りゅうずを２段引き位置にします。

●秒針が12時位置まで高速運針し、停止します。

2．りゅうずを回し「分針、時針」を合わせます。

①右に回すと（1クリック）、秒針が時計回りで1回転し、分針が1分進みます。
②左に回すと（1クリック）、秒針が反時計回りで1回転し、分針が1分もどります。
●りゅうずを連続回転（2クリック以上）させると秒針、分針、時針が連続運針します。
●連続運針を停止させる場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。（1クリック）

【注意】日付が切り替わったときが午前０時です。午前、午後に注意してください。

3．時報などに合わせて、りゅうずを通常位置にもどしてください。

10．カレンダーの合わせ方

《カレンダー修正の手順》

1．りゅうずを１段引き位置にします。
・カレンダー修正状態になり、時計が記憶している「月」と「経過年」の位置に秒針が移動し、停止します。

2．りゅうずを回し「日付」を合わせます。
①右に回す（1クリック）と、日付が1日進みます。
②左に回す（1クリック）と、日付が1日もどります。

3．（A）ボタンを１回押し、P28「うるう年からの経過年早見表」より本年は何年目かを確認し、りゅうずを右に回して（１クリック）、「月」と「経過年」に対応した位置に秒針を合わせます。左に回すと（１クリック）、秒針が逆転します。

☞ P.29「具体例」を参考に秒針を合わせてください。

4．りゅうずを通常位置にもどしてください。

●りゅうず1段引き後、（A）ボタンを押すことで、修正箇所（日または年月）の選択を行います。修正箇所の切り替わりは、針と日が動くことでお知らせします。

《秒針による月と年（うるう年からの経過年）の見方》

☆秒針が指す「月」の見方

秒針が1時と2時の間：1月
秒針が2時と3時の間：2月
⋮
秒針が12時と1時の間：12月

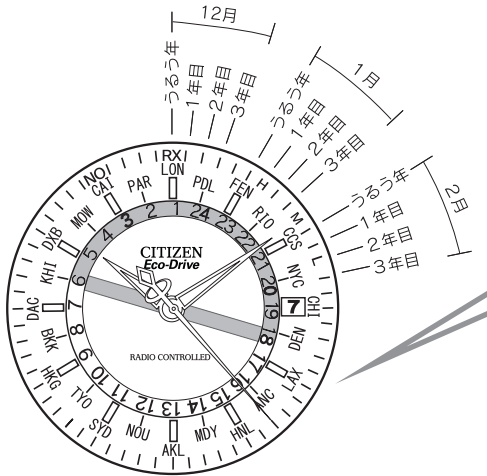
☆秒針が指す「経過年」の見方

うるう年：秒針が各月のゾーンの最初の目盛り
うるう年から1年目：各月のゾーンの1目盛り目
うるう年から2年目：各月のゾーンの2目盛り目
うるう年から3年目：各月のゾーンの3目盛り目

うるう年からの経過年早見表

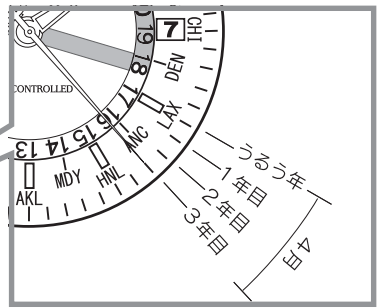
年	経過	年	経過	年	経過
2004	うるう年	2008	うるう年	2012	うるう年
2005	1年目	2009	1年目	2013	1年目
2006	2年目	2010	2年目	2014	2年目
2007	3年目	2011	3年目	2015	3年目

右記の具体例も参考に確認、修正をしてください。



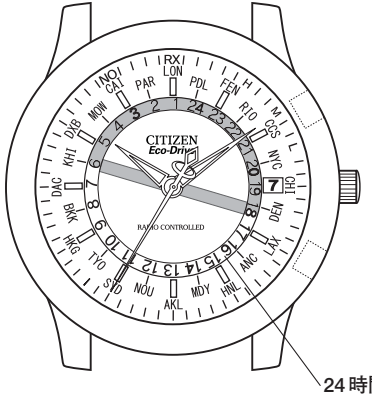
〈具体例〉

秒針が23秒を指しているとき、4時位置と5時位置の間を指しているので、4月を表しています。
また、4時位置から3秒目を指しているので、うるう年から経過3年目ということになります。



11．ワールドタイムについて

現在時刻のほかに、24時間円板で世界各都市の時刻を表示できます。



24時間円板は時針・分針と連動しています。時刻を修正すると、24時間円板も自動的に修正されます。

円板の基準位置を修正するときは、☞P.34「基準位置の修正方法」をご覧ください。

※24時間円板の単独の修正は、基準位置修正時のみ可能です。

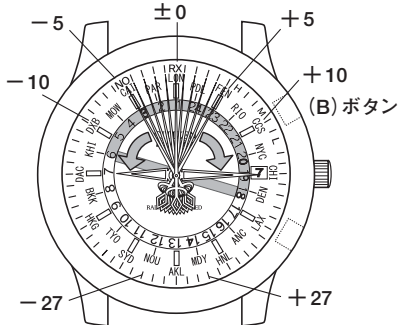
《世界各都市表記の対応表》

LON	ロンドン	HKG	ホンコン	LAX	ロサンゼルス
PAR	パリ	TYO	東京	DEN	デンバー
CAI	カイロ	SYD	シドニー	CHI	シカゴ
MOW	モスクワ	NOU	ヌーメア	NYC	ニューヨーク
DXB	ドバイ	AKL	オークランド	CCS	カラカス
KHI	カラチ	MDY	ミッドウェー	RIO	リオデジャネイロ
DAC	ダッカ	HNL	ホノルル	FEN	フェルナンド・デ・ノローニャ諸島
BKK	バンコク	ANC	アンカレジ	PDL	アゾレス諸島

※モデルによって都市や時刻の表記内容・位置が変わる場合があります。
（例）都市表記：「TYO」→「TOKYO」　時刻表記：「22 23 24」→「22・24」

12．時差修正の方法

時差がある地域に行ったとき、秒針を操作することで、現地の時刻に１時間単位で時差を設定することができます。



（例）香港は日本を基準にした場合、−1時間の時差があるので、秒針を「59秒位置」に合わせます。

1．りゅうずが通常状態で（B）ボタンを１回押すと、秒針が12時位置に停止し、秒針12時位置が時差±0時間です。

※時差設定されている場合は、時差分の位置で停止します。

2．りゅうずを引き出さない状態で、右に回すと（1クリック）、秒針１ステップで時差＋１時間の設定ができます。左に回すと、秒針１ステップで−１時間の設定ができます。

●秒針12時位置が日本時間です。日本時間を基準に“**±27時間**”まで時差設定ができます。

※時差修正後で日付が変わるときも自動的に計算されます。

3．時差設定後に（B）ボタンを１回押すか、何も操作しないで60秒経過すると各針が高速で回転し、時差設定時刻を表示します。

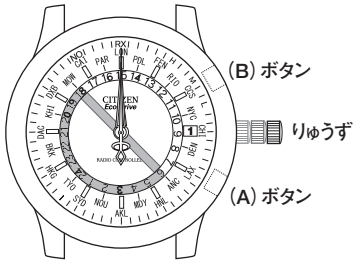
●時差修正がされたまま電波を受信しても、設定した時差分が反映された時刻が表示されます。

●時差修正の場合、24時間円板は連動しません。
時差修正を行っても、24時間円板は「日本時間」表示のままとなります。

13. 基準位置の修正方法

時刻：「0時0分0秒」
24時間円板：「24時位置が東京を指す位置」
日付：「1日」

以外を表示した場合は、基準位置修正を行ってください。



≪時針、分針、秒針、24時間円板、日付の基準位置修正方法≫

1. (B) ボタンを約5秒以上押し、秒針が高速で回転をしたら離し、運針中にりゅうずを2段引き位置にし、そのまま待ちます。

2. りゅうずを回して日付を「1」に合わせます。

①りゅうずを右または左に連続回転 (2クリック以上) させると、日付が連続運針します。りゅうずを左右どちらかに回すともどります。

●連続切り替えを停止させる場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

②文字板窓枠の中心に「1」が見えたら、りゅうずを左右どちらかに回し停止させます。りゅうずを回転 (1クリック) させると微調整できます。

●(A) ボタンを押すことで、修正箇所が切り替わります (24時間円板→時分秒→日付)。修正箇所の切り替わりは、針 (円板) や日付が動くことでお知らせします。

3. (A) ボタンを1回押し、りゅうずを回して24時間円板上の「24時」を東京 "TYO" の位置に合わせます。

①りゅうずを右に連続回転 (2クリック以上) させると、24時間円板が連続運針します。りゅうずを左右どちらかに回すともどります。

②りゅうずを回転 (1クリック) させると24時間円板を微調整できます。

4. (A) ボタンを1回押し、りゅうずを回して針を「0時0分0秒」に合わせます。

①りゅうず右回転 (1クリック) で、秒針が高速で1分進み、左回転でもどります。

②連続回転 (2クリック以上) させると、秒針が高速に回り、連動している分針、時針が連続運針します。りゅうずを左右どちらかに回すともどります。

5. 基準位置合わせ後、りゅうずを通常位置にもどし、(B) ボタンを1回押すか、約2分間放置すると、各針と日付が高速で現在時刻および日付にもどります。

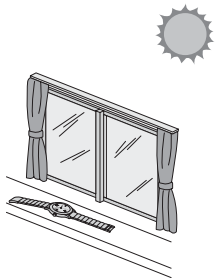
●これで基準位置合わせは終了ですが、現在時刻にならない場合は、「強制受信」などを行い、正しい時刻に合わせてからご使用ください。

14．光発電機能について

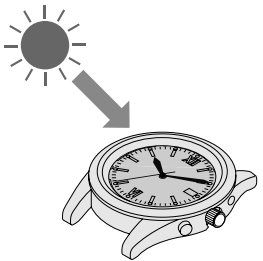
この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。
一度フル充電すると、約6ヵ月間時刻を刻み続けます。

〈この時計の上手な使い方〉
この時計を快適にご使用いただくためには、常に明るい場所での保管を心がけてください。

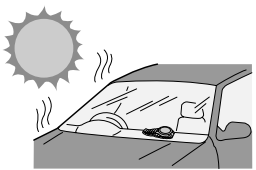
◆時計を外したときも、時計の文字板に太陽光が当たる、窓際等の明るい場所に置くように心がけると、常に充電を続け時計は動き続けます。



◆日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当らないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
月に一度は長時間直射日光を当てて、充電されることをおすすめします。

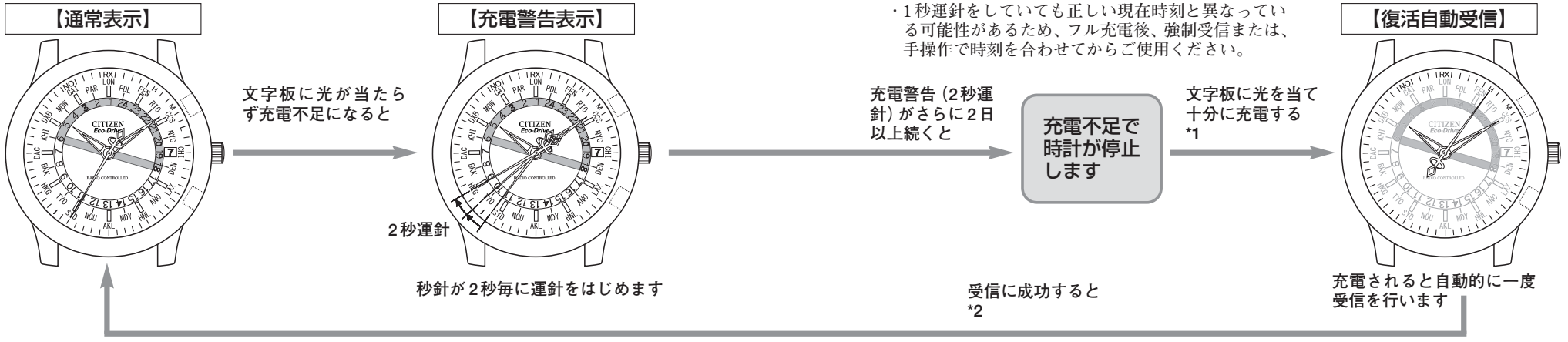


【注意】
車のダッシュボード等の高温になる場所での充電は避けてください。



15．ソーラーパワーウオッチ特有の機能について

◎この時計は、充電不足になると表示が次のように切り替わります。



***1. 充電不足で停止した場合**

・光を当てても復活自動受信を行うまで、最短で約30分かかります。
それ以降も「充電時間の目安」を参考に、十分充電を心がけてください。

***2. 復活自動受信に失敗した場合**

・1秒運針をしていても正しい現在時刻と異なっている可能性があるため、フル充電後、強制受信または、手操作で時刻を合わせてからご使用ください。

A. パワーセーブ機能

文字板に、光が当たらない状態が7日以上継続した場合は、各針が12時位置で止まりパワーセーブ（節電状態）になります。

［パワーセーブ中でも以下の機能は作動します］

- 時計内部では常に時刻を刻んでいます。
- カレンダー（日付、曜日）は自動更新します。

12時位置で停止します。

〈パワーセーブの解除方法〉

文字板に光を当てると、パワーセーブが解除されます。

- パワーセーブが解除されると、各針が高速で現在時刻にもどり、1秒運針になります。
- 充電不足の場合は、2秒運針を始めます。再度、1秒運針になるまで十分に充電を行ってください。

【注意】りゅうず、または、ボタン操作ではパワーセーブは解除できません。光を当てて解除してください。

B．充電警告機能

秒針が1秒運針から2秒運針に切り替わり、充電不足になったことをお知らせします。
2秒運針を始めてから、光が当たらない状態が約2日以上経過すると時計は停止します。

【注意】２秒運針しているときは定時受信、強制受信および手動での時刻修正はできません。

◆「受信」「受信結果の確認」「時差修正」「基準位置の確認／修正」の最中に充電不足が発生すると、自動的に操作を中断し操作前時刻に戻り、2秒運針を始めます。
充電不足にならないように、常に充電を心がけてください。

C．過充電防止機能

どんなに充電しても二次電池や、時間精度、機能、性能等に影響をおよぼす心配はありません。

文字板に光が当たり、フル充電になると、それ以上は充電されないように自動的に過充電防止機能が働きます。

D．充電時間の目安

時計のモデル（文字板の色など）により充電時間は異なります。
あくまでも目安としてご利用ください。

＊充電時間は連続照射時間です。

照度 lx（ルクス）	環　境	充電時間（約）		
		1日分の充電時間	停止状態から1秒運針するまでの時間	フル充電までの時間
500	屋内照明	4時間	13時間	―――
1,000	蛍光灯（30W）の下 60cm～70cm	2時間	6時間	―――
3,000	蛍光灯（30W）の下 20cm	40分	2.5時間	120時間
10,000	曇天	11分	1時間	35時間
100,000	夏の日の直射日光下	3分	35分	17時間

1日分の充電時間…時計を通常運針で1日動かすのに必要な充電時間。
フル充電時間……時計が充電不足で停止している状態から最大に充電されるまでの充電時間。

【注意】フル充電後、持続時間は約6ヵ月となります。
パワーセーブが作動しているときは約2.5年間、時刻を刻み続けます。
ただし、充電不足で停止してしまうと、表のように時計が動き出すまでに時間がかかりますので、毎日の充電を心がけてご使用ください。
なお、月に一度は長時間直射日光を当てて充電されることをおすすめいたします。

E. 取り扱い上の注意

⚠ 警告　二次電池の取り扱いについて

◆お客様は時計から二次電池を絶対に取り出さないでください。
やむを得ず電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。万一、飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談して治療を受けてください。

◆一般のゴミと一緒に捨てないでください。
発火、環境破壊の原因となりますので、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

⚠ 警告　指定の二次電池以外は使用しないでください

◆他の種類の電池を組み込んでも、時計は作動しません。
無理に一般の銀電池を使い、充電されると過充電となり、電池が破裂して、時計の破損および人体を傷つける危険がありますので、絶対に行わないでください。

⚠ 注意　充電上の注意

◆高温下（約60℃以上）での充電は避けてください。
外装部品の変色、変形およびムーブメント部品の故障等の原因となります。
例）・白熱灯、ハロゲンランプ等、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電。
・車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電。

◆白熱灯、ハロゲンランプ等、高温になりやすい光源で充電するときは、必ず50cm以上離して、時計が高温にならないように注意して充電してください。

《電波受信機能について》

状　況	確　　認	対　処　方　法
受信を開始しない。	●秒針が「RX：受信準備」に移動しますか？	●(A)ボタンを押し続け、秒針が「RX：受信準備」位置を指したら、指を離してください。
受信はできるが、時報等の時刻と合わない。	●基準位置が正しくセットされていますか？ 基準位置の確認をしてください。 ☞ P.12	●基準位置が正しくない場合は、「**基準位置の修正方法**」を参照し、合わせ直してください。 ☞ P.34

状　況	確　　認	対　処　方　法
受信できない。 （受信可能地域内で）	●電波をしゃへいする物やノイズを発生する物が近くにありませんか？ ●窓から遠い場所で受信していませんか？	●電波をしゃへいする物や、ノイズが発生する物を避けて、時計の９時位置を送信所に向け受信してください。 場所、方向、角度を何度か変えて窓際の受信しやすい場所を探してください。 ☞ P.18
	●受信中で秒針が「RX」または、「H、M、L」を指しているときに時計を動かしていませんか？	●受信が終了するまで（通常運針にもどるまで）時計を動かさないでください。 （受信にかかる時間が約２分～最大 13分かかることがあります）

《エコドライブについて》

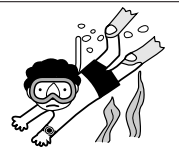
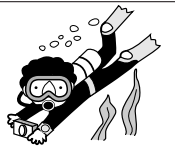
状　況	確　認	対 処 方 法
●秒針が２秒毎に動いている。 ●時計が止まってしまった。 ●充電しても動かない。	●十分に太陽光に当てていましたか？	●充電時間の目安を参考に十分に充電を行なってください。 ☞ P.44 ●充電したにもかかわらず動かない場合は、最寄りの弊社お問い合わせ窓口にご相談ください。 ☞ P.65

状　況	確　認	対 処 方 法
●時計を机やタンスなどから出した瞬間に、針が早送りされる。		●光が当たったことにより、パワーセーブ（節電状態）が解除され、現在の時刻まで早送りされたためです。そのままお使いください。 ☞ P.40

⚠ 警告　防水性能について

●日常生活用防水時計（3 気圧防水）は、洗顔などには使用できますが、水泳などには使用しないでください。
●日常生活用強化防水時計（5 気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキンダイビング）やスキューバ潜水などには使用しないでください。
●日常生活用強化防水時計（10/20 気圧防水）は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用しないでください。

●時計の文字板及び裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下図を参照して正しくご使用ください。（1bar は約 1 気圧に相当します）
● WATER RESIST（ANT）×× bar は W.R.×× bar と表示している場合があります。

名称	表示 文字板又は裏蓋	仕様	使用例 水がかかる程度の使用。（洗顔、雨など）	 水仕事や、一般水泳に使用。	 スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	 空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	 水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
日常生活用 防水時計	WATER RESIST (ANT)	3 気圧防水	○	×	×	×	×
日常生活用 強化防水時計	WATER RESIST (ANT) 5 bar	5 気圧防水	○	○	×	×	×
日常生活用 強化防水時計	WATER RESIST (ANT) 10/20 bar	10 気圧防水 20 気圧防水	○	○	○	×	×

⚠ 注意

●りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
●水分のついたまま、りゅうずやボタンの操作をしないでください。
時計内部に水分が入り、防水不良となる場合があります。
●皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。水の中で使うことが多い日常生活用強化防水時計の場合は脱色、接着はがれなどの不具合を起こすことがありますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用ください。
●日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸した時や多量の汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。
●万一、時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えないときはそのまま放置せず、お買い上げ店または、最寄りの弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。
●時計内部に海水が入った場合は、箱やビニールに入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、ボタンなど）が外れる危険があります。

⚠ 注意　バンドのお取り扱いについて（着脱時の注意）

●バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

⚠ 注意　携帯時の注意

●幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分ご注意ください。
●激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
●サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。
●ウレタンバンドは、衣類などの染料や汚れが付着し、除去できなくなる場合があります。色落ちするもの（衣類、バッグ等）と一緒に使用する場合はご注意ください。

⚠ 注意　時計は常に清潔に

●ケースとりゅうずの間にゴミや汚れが付着したまま放置しておくと、りゅうずが引き出しにくくなることがあります。時々、りゅうずを通常位置のままで空回りさせてください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
●ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
●かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐに医師に相談してください。

かぶれの原因

1. 金属、皮革アレルギー
2. 時計本体及びバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗など

●皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。
乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
●皮革バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。

＜時計のお手入れ方法＞

●ケース、ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。
●皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。
●金属バンド／プラスチックバンド／ウレタンバンドは水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで取り除いてください。
●溶剤類（シンナー、ベンジンなど）の使用は、変質の恐れがありますので避けてください。

＜ナチュライト付きの場合＞

●「ナチュライト」は、放射線物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した塗料です。
ナチュライトは、太陽光や室内照明などの光を蓄え、暗い所で発光します。ただし、蓄えた光を放出させるため、時間の経過と共に少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。また、光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間などによって発光する時間に誤差が生じます。
光が充分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

＜温度について＞

●－10℃～＋60℃の温度範囲外では機能が低下したり、停止することがあります。製品仕様範囲外でのご使用はお避けください。

＜磁気について＞

●アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

＜静電気について＞

●クオーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

＜ショックについて＞

●落としたり、強くぶつけるなど衝撃は与えないでください。

＜化学薬品・ガスについて＞

●化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤及びそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には充分注意してください。

＜保管について＞

●長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

●時計を長期間ご使用にならない場合、できるだけ光が当たる場所での保管をお勧めします。

16. 製品仕様

1. 機種：H115
2. 型式：アナログソーラーパワーウオッチ
3. 時間精度：非受信時（電波を受信していないとき）
   平均月差±15秒
   常温（＋5℃～＋35℃）携帯時
4. 作動温度範囲：－10℃～＋60℃
5. 表示機能：●時刻：時、分、秒、24時間円板
   ●日付
6. 付加機能：●電波受信機能（定時受信、強制受信、復活自動受信）
   ●受信局自動選択機能（日本標準電波専用）
   ●受信準備表示機能（RX）
   ●受信中レベル表示機能（H、M、L）
   ●受信結果確認機能（H、M、L）または（NO）
   ○JIS 1種耐磁性能
   ○衝撃検知機能
   ○針補正機能
   ●ワールドタイム機能
   ●時差修正機能
   ●基準位置確認／修正機能
   ●光発電機能
   ●パワーセーブ機能（節電）
   ●充電警告機能（2秒運針）
   ●過充電防止機能
7. 持続時間：●フル充電後、充電しないで時計が停止するまで
   ：約6ヵ月
   ：約2.5年（パワーセーブが作動しているとき）
   なお、持続時間は電波受信回数等によって異なります。
   ●充電警告表示～充電不足で時計が停止するまで
   ：約2日
8. 使用電池：二次電池　1個

※製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービスについて

＜保証について＞
正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

＜修理用部品の保有期間について＞
当社は、時計の機能を維持するための修理用部品を通常７年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・ボタン・バンドなどの外装部品については、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

＜修理可能期間について＞
当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

＜ご転居・ご贈答品の場合＞
保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

＜定期点検（有償）について＞
安全に永くご使用いただくために、２～３年に一度、点検（有償）を行ってください。
防水時計の防水性能は、経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行ってください。
部品交換の際は、純正部品とご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行う必要がある場合もありますので、交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

＜修理について＞
時計の品質を維持するために、この時計はバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。これは、修理、点検、調整等に特殊技術、設備を必要とするためです。
修理等の際は最寄りの弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

＜その他お問い合わせについて＞
保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または、最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

受信困難なお客様へ

受信に関しては、その時の気象状況や電波環境の影響を受けます。
『電波受信』をお試し頂いても、万一受信に成功されないという方には、電波送信所からの電波進入方向を示した地図をお作りするなどのサポートをしています。
受信が困難なお客様は『シチズンお客様時計相談室』へお問い合わせください。
なお、お客様からお預かりした個人情報は、受信に関するサポートのみ使用し、それ以外の目的には使用いたしません。